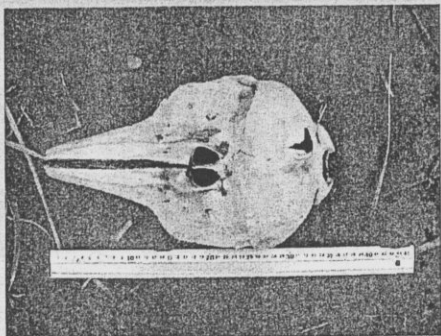
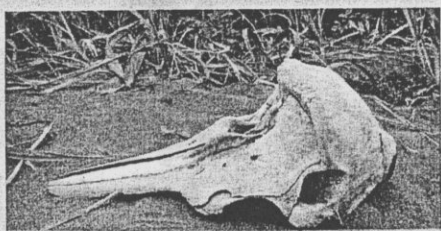


この正体は？

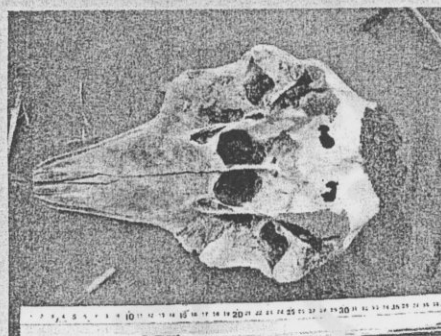
石狩浜で発見した頭骨。全長 35 cm。



背面。真ん中の2つの穴が鼻の穴



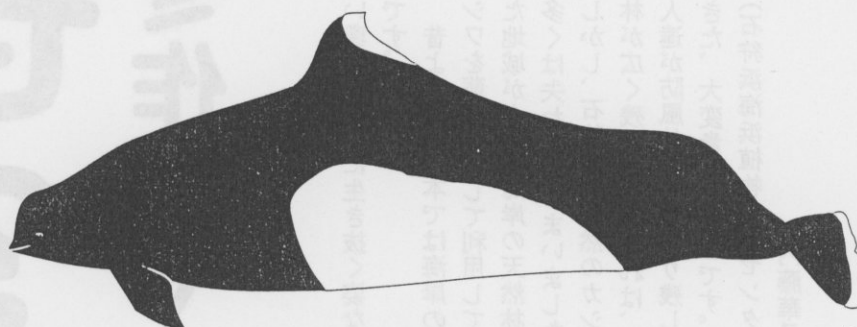
側面。額のくぼみに「メロン」があります。



腹面。

歴史のドアを開けよう
いしかり博物誌
■文化財・博物館開設準備室 ☎0133-72-6123
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

▶イシイルカ(イシイルカ型)。日本近海には、日本海で越冬するイシイルカ型と、三陸沖で越冬するリクゼンイルカ型とがあります。両者は白い模様と体の大きさが少し違います。



1.7~2.2m

この夏、頭蓋骨^{ずがいこつ}を拾いました。石狩浜には、東シナ海からやってくる対馬暖流に乗って、いろいろなものが漂着します。この頭蓋骨は、海水浴場のごみ拾いをしたときに見つけたものです。もちろん人間のものではありません。いったい何の骨でしょうか。

全長三十五センチメートル、上から見ると二つの大きな穴があいています。これはどうやら鼻の穴。ほ乳類でも魚類でも、脊椎動物^{せきついどうぶつ}の鼻の穴は、ふつうはまさに「鼻先」にあります。でもこの骨では頭の真ん中に、真上を向いて鼻の穴があいている!? 頭のてっぺんに鼻がある動物—それは、ク

ジラ・イルカ(あわせてクジラ類)です。クジラの潮吹きは、この鼻の穴からの呼吸です。もう一つ、この骨には変わったところがあります。額の部分があぐれたような形をしているのです。実はここは「メロン」と呼ばれる脂肪でできた組織が入っていた場所で、クジラ類のなかでもイルカやマッコウクジラなど、ハクジラ(齒鯨)類にしかない特徴なのです。

空気中と違って、海の中ではあまり視界が利きません。ハクジラ類は、音によって周りを「見て」いるのです。自分が出した音が何かに反射して戻ってくるのを聞き取って、どこにどんな形のものがあるのか分かる、と言われています。コ

ウモリと同じ能力です。この時、光を集めるレンズのように音波を集中させる役割をするのが、この「メロン」だと考えられています。

そのほかの細かい特徴を調べてみた結果、どうやらイシイルカの頭骨とわかりました。成体で体長二メートルの小型のハクジラ類で、北日本からアラスカにかけての太平洋やベーリング海など、冷たい海に棲んでいます。

この頭骨、内側にはまだ肉が残っていました。現在はある所に埋めて、土中のバクテリアが肉を分解して、きれいな白骨にしてくれるのを待っています。

(志賀健司)

浜辺の頭蓋骨